

がんばらないけど、あきらめない！

～命を支える病院～

3

前々号より3回にわたってご紹介してきました鎌田先生記念講演の様様、今回はその最終回です。

言葉を受け止める

あるとき、前立腺がんで末期だった患者さんが、桜が咲いたというニュースを聞いて、「来年は、桜が見られないだろうな」ってつぶやきました。それを、若い看護師さんが聞いていて、もう身体があまり動かない患者さんをストレッチャーに乗せてお花見に連れて行ったんです。

病室に帰ってきた後、「お花見に行ってよかったですね」と声をかけたら、患者さんは、「俺はお花見がしたかった訳ではない」と言うんです。「でも嬉しかった」と。「若い看護師さんが

僕の言葉を受け止めてくれて、どうしようって考えてくれたことが嬉しい」と。

僕たちの国は、言葉を受け止めるということをちゃんとしてきたと思う。かつては子どもたちの言葉も弱い人たちの言葉も、受け止めていた。それが、何かバブルの頃から、

大切なあたたかさを失い出した。

日本は、特別にお金持ちじゃなくて、まあまあの生活のなかで皆で助けあったり理解しあったりしてきたように思う。僕は、それが日本人の一番大切な生き方なんじゃないかと思うんだけど。多分あの構造改革とか、カッコいい言葉で改革といっていることは、一握りのお金持ちを作ることにつながっていくんじゃないかと。医療もアメリカのように、いずれ国民皆保険制度が壊れてしまうんじゃないかって、心配しています。

医療費が高いとマスコミも厚生労働省もずっと言い続けていますが、先進国の中では18位ぐらい。医療費をあまり使

わない国なんです。

アメリカはスゴイ医療を使っているように見えるけど、あの国では4500万人の人がまともな医療を受けられずにいる。ハリケーンで死んでいく人たちが、アメリカにいます。日本は皆平等にきちんとした医療が受けられる。素晴らしいシステム。この制度を壊そうとしている人たちがいる。

僕は一貫して地域の医療費を上げずに、地域を健康にして、救急医療と高度医療を軸にしながらあたたかな医療をして、医療費をあまり上げずに国民皆保険制度を守りたいと思っています。やろうと思えばやれるんです。

人間は一人で生きているんじゃない

僕たちは、イラクの子どもたちに薬を送るということもしています。劣化ウラン弾に関係しているかどうか分からないんですが、無脳症の子どもが生まれたり、白血病の子が7倍ぐらい多くなったりしています。大人が戦争をしても、子どもに責任があるわけではない。でも、なんとも子どもたちの未来が閉ざされている。

僕も子どもの時に親が育てられなくなって危なくなりかけたのに、貧乏な人が拾ってくれて助けてくれて今がある。結局、人間は一人で生きているんじゃない。人間と人間のつながりの中で生きているのだと思うんですね。ですから僕も、できるだけのをしてあげたいと思っています。

チェルノブイリ原発事故の汚染地帯にも、15年間支援をしてきました。日本からの抗がん剤が効いた少年も、18歳になりました。嬉しいですね、助かった子どもたちと会えるのは。

でも、助けてあげられない場合もあります。助けられなかつ

